

甲斐往来

第十二回 石和温泉駅



歴史の中で役割を担う駅

昭 和三十六年、毎分千二百リットル・摂氏四十六度の温泉が、石和町八田から噴出しました。この温泉により「石和」の名は観光地として全国的に有名になりましたが、石和駅（現石和温泉駅）が誕生したのは、これよりはるか前の明治三十六年までさかのぼります。

甲州街道や鎌倉街道、青梅街道などの主要路が交わる石和宿周辺は、当時、養蚕・蚕糸業が盛んで、生産された生糸は、ブドウや瓦などの特産物とともに馬の背中に載せられ、東京や横浜に運ばれていました。中央線開通により鉄道輸送へと代わり、石和駅は、市場の拡大に貢献していきました。

温泉の湧出を契機に、石和は、瞬く間に大温泉郷へと姿を変えていきました。貨物の搬出が中心だった駅も観光客の乗降駅へと変貌をとげ、平成五年には、石和温泉駅と改名されました。

現在は、名実ともに温泉街への玄関口となつている石和温泉駅。駅構内に設けられた大河ドラマ「風林火山」のコーナーが観光気分を盛り上げます。また、ホームのフェンスには、ツルバラも巻かれ、春から夏にかけて、華やかな姿で観光客を迎えてくれます。春本番の訪れとともに、石和温泉駅は、にぎわいを増していきます。

県民の皆さまへ

山梨県知事 横内正明

この度私は、多数の県民の皆さまのご支持をいただき、第五十九代知事として、県政執行の重任を担うこととなりました。今、その責任の重大さに改めて身の引き締まる思いがすると同時に、限らない使命感と情熱を感じております。

ふりかえれば戦後、山梨県は豊かな郷土づくりに向け県民総力を挙げて取り組み、大きな成果をあげてきました。我が国では、近年、戦後最長といわれる景気回復が続いていると言われておりますが、山梨では多くの中小企業や地場産業が不況の中にあり、県民の豊かさの実感は薄れつつあります。経済の凋落は、福祉、教育、文化という広い分野にまで影を落とし、県民全体の活力を削いでいます。こうした中、「山梨を変える」・「山梨再生」こそが県民の切なる願いであります。また、来るべき「道州制」において、山梨県は、首都圏を含む巨大な広域行政体の一地域になること

が予測されますが、その時本県は、「大都会の人々があこがれる美しい山の都、森の都」として確固たる地位を保持していなければなりません。



山梨には、内外に誇れる優れた地域資源がたくさんあります。大都市東京に隣接するという有利な立地条件、美しく豊かな自然、そこで育まれた美味しい果物やワイン、そして伝統と技術に裏打ちされた優れた地場産業や先端産

業があります。こうした「すぐれもの」をさらに多く創り出し、私たちが先頭に立ち、国内外に情報発信して参ります。また、優れた立地条件を生かして先進的な企業を誘致し、観光客呼び込み、県産品の販路拡大を進め、産業と経済の活性化を図っていくことが必要です。

経済を活性化させ、県税収入の増加を図り、財政再建を進めていくことが重要です。こうして財政基盤を強化し、医療や福祉、教育などの政策が充実した「暮らしやすさ日本一」といわれる社会をめざす、これが、「山梨を変える」ための私の基本戦略であります。

私は、この基本戦略に基づき、「山梨を変える」・「山梨再生」という大きな目的に向かって、八十八万県民の英知とエネルギーを結集し、県民の皆さまと一丸となつて挑戦していく決意であります。県民の皆さまのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

vol.12 目次

ふれあい

やまなし県政だより

[特集号]

- 2 シリーズ山梨の駅—甲斐往来「第12回 石和温泉駅」
- 3 県民の皆さまへ
- 4 横内正明知事 新県政スタート!
- 6 特集1 「甲斐の国 風林火山博」好評開催中

- 10 第37回信玄公祭り
- 特集2 「食育」のすすめ —「やまなし食育推進計画」策定—
- 16 山梨の旧道を訪ねて 「身延山追分道 / 赤沢宿」

- 18 甲斐のひと、インタビュー 「小林雅英 さん」
- 20 子育てママが調べた バリアフリーマップ
- 22 県政フラッシュ
- ◆ 地産地消—おいしい山梨再発見 「タラの芽」